

施工段階		下地・間仕切り		6	設備工事：			シート番号	
電気	空調	衛生	その他		性能検査実施要領（工程内検査(配管)）			6-8	
—	○	○	—						

ポイント

■配管工程内検査

- ・配管工事が完了し建築工事（仕上げ）が始まる前に、所定の漏洩試験を行い配管などからの漏洩がないことを確認し、次工程（塗装工事、保温工事など）へ引き渡されなければなりません。
- ・施工の初期段階に実施する為、試験方法、試験圧力・時間の決定、安全計画など適切な計画を行い、試験箇所の欠落がないようにします。

■各種試験（中間時 工程内検査）

- ・給水及び給湯配管・・・水圧試験（* 気密試験）等
- ・排水及び通気配管・・・満水試験、通水試験等
- ・ガス配管・・・気密試験
- ・消火配管・・・水圧試験（* 気密試験）
- ・冷媒配管・・・気密試験
- ・冷温水管、冷却水管・・・水圧試験 等

* 水圧試験に先立ち漏れ及びプラグ忘れなどを確認する為に空気圧試験を先に予備試験として行う場合もある。

合格基準は施工要領書に記載し監理者の確認を取ります。

例) 水圧試験表



先輩アドバイス

- ・工程内検査は施工要領書に基づき早期に計画しましょう。
- ・検査時期はさび止め塗装前、保温前に実施しましょう。
- ・試験表の書式は事前に確認しましょう。（施主又は設計事務所の指定書式がある場合。）
- ・検査記録として、施工写真（検査前、検査後）を確実に撮り記録に残しましょう。
- ・検査実施範囲を図面、系統図を用い明確にし、検査漏れがないように管理しましょう。
- ・バルブ、プラグの状態を確認して試験を行いましょう。

チェック項目

- 検査計画書の作成、事前確認はできていますか。
- 検査を実施する時期（タイミング）、範囲は明確になっていますか。
- 検査を実施する検査器具の準備はできていますか。
- 工事関係者（設計・監理者及び施工担当者<建築含む>、作業者）への周知はできていますか。

失敗すると...

- ・工程内検査を確実に実施しなければ、次工程に進めず工程遅延が発生します。
- ・要領書に記載のある検査手順通りにしなければ、再検査になります。
- ・検査記録の不備があると仕上げ工事後に解体し再検査することになります。

共通管理項目	合理化 省力化	施工性 向上	品質・性能 向上	工期 短縮・圧縮	コスト削減 (材料)	コスト削減 (労務)	設備 先行工事	工事区分 見直し	責任所在 明確化
	—	—	○	—	—	—	—	—	○
備考	参考文献：						制定	2019年3月1日	
	参考メーカー：						改訂		